

登別小学校保護者 各位

登別市立登別小学校長
松田周一

保護者アンケート・児童アンケートの集計結果（後期）について

11月下旬から12月上旬にかけてWeb入力方式で行いました保護者アンケートに対しましては、多くの保護者の方にご協力をいただき誠にありがとうございました。集計結果がまとまりましたので、児童アンケート集計結果と合わせてお知らせいたします。

保護者アンケート

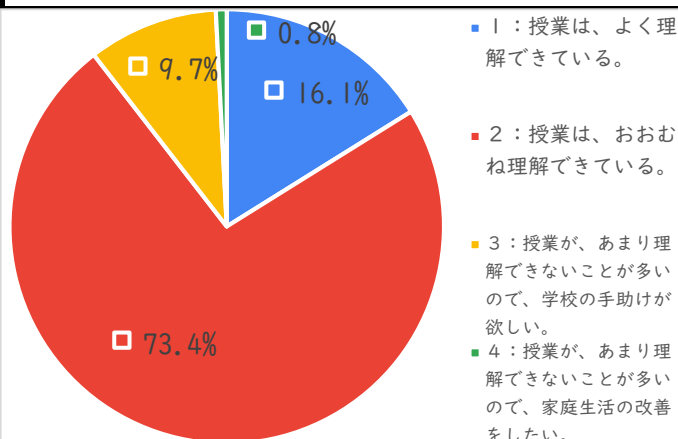
1、回答数 124 (93.2%) ※前回 116 (87.2%)

※パーセンテージは、児童数を100と見た時の回答数の割合です。（今年度児童数133名）
ご回答にご協力いただき、誠にありがとうございました。

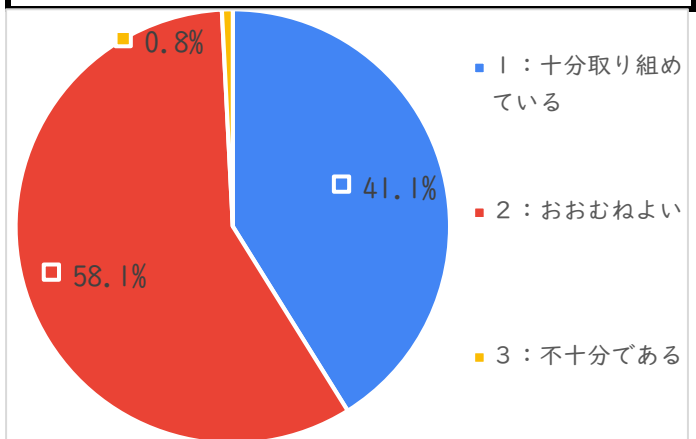
2、集計結果

(1) 学校の取組について

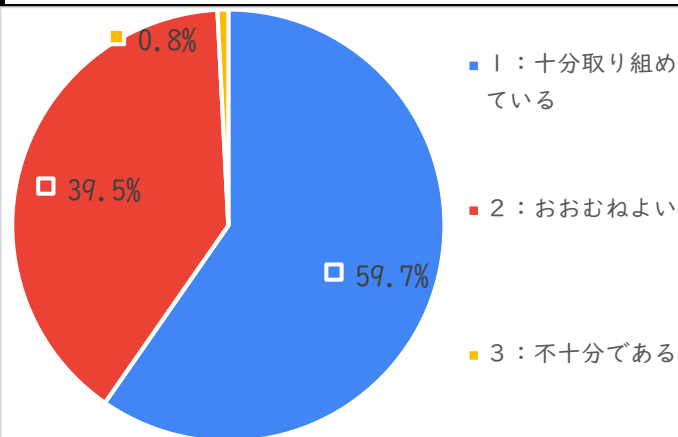
1. 登別小学校は、『共生』（すべての子どもが）、『協働』（楽しく学び合い）、『表現』（わかる・できるを実感し）、『継続』（自ら学びを積み重ねていく）をキーワードに、子どもたちがお互いを高め合える授業を目指しています。お子さんの状況に近いのは、どれでしょうか。



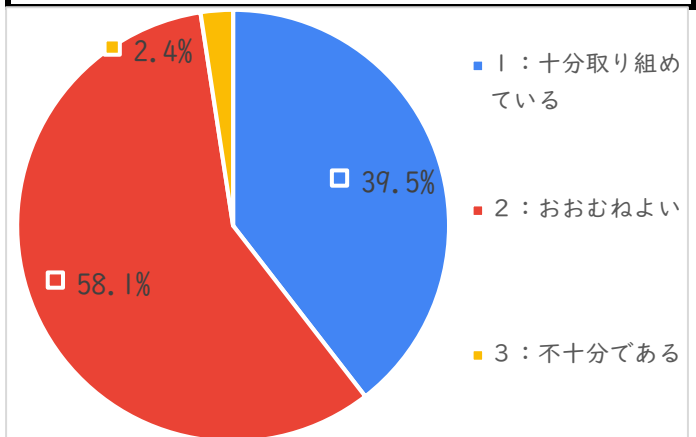
2. 登別小学校では、「心豊かで自他の違いを認め合える学級づくり」を目指し、道徳教育や読書活動、学級活動、日常の学級経営などに取り組んでいます。この取組について、どう思われますか。



3. 登別小学校では、「たくましく生きるための健康や体力づくり」のため、アウトメディアチャレンジ、とんぼタイム、体育コーディネーター（外部講師）、歯みがき指導などを行っています。この取組について、どう思われますか。

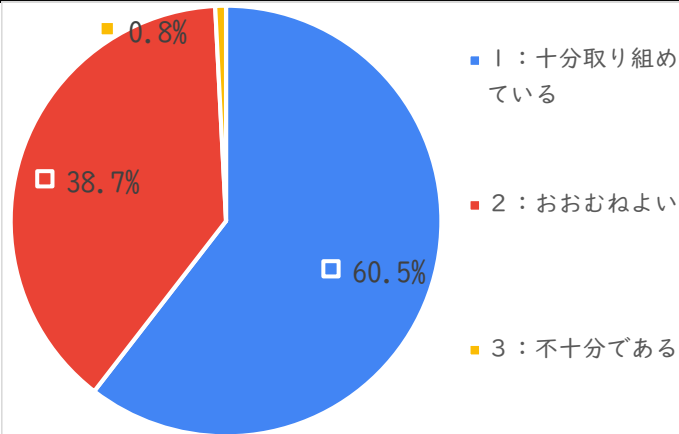


4. 登別小学校では、いじめ防止基本方針に基づいて、いじめの未然防止・早期発見・早期解決に取り組んでいます。この取組について、どう思われますか。

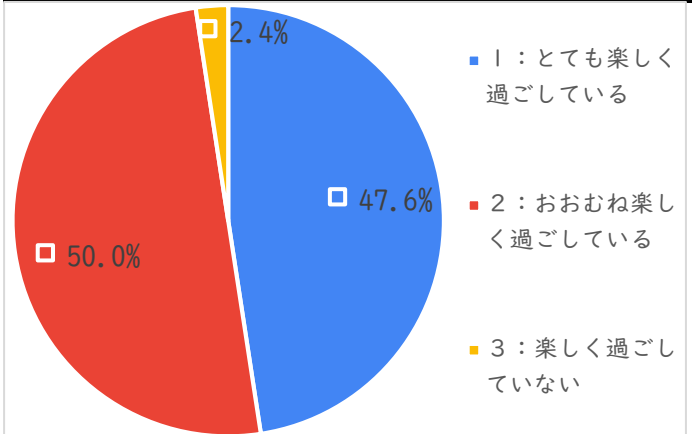


本校の教育目標である、よく考える子(知)・体をきたえる子(体)・仲良く助け合う子(徳)・がんばりぬく子(意)のそれぞれの面で、おおむねよく取り組んでいるという評価をいただきました。ただし、前期アンケートの結果と比較すると、十分よい旨の回答値が1.2.3とも約10%程度減少し、概ねよいとする回答値にスライドしていることがわかりました。特に、1.の「学習の理解」については、今後とも、個に応じたきめ細やかな指導に努めてまいりますので、ご家庭でも、家庭学習のご励ましの声、協力をお願いいたします。4.の質問については、前期と大きな数値の変動はありませんでした。すべてのお子さんが安全・安心な学校生活を送ることができるよう、今後とも、いじめの予防的指導、積極的認知、早期発見・早期解決に努めてまいります。ご家庭でも、気になることがございましたら、いつでもご連絡ください。

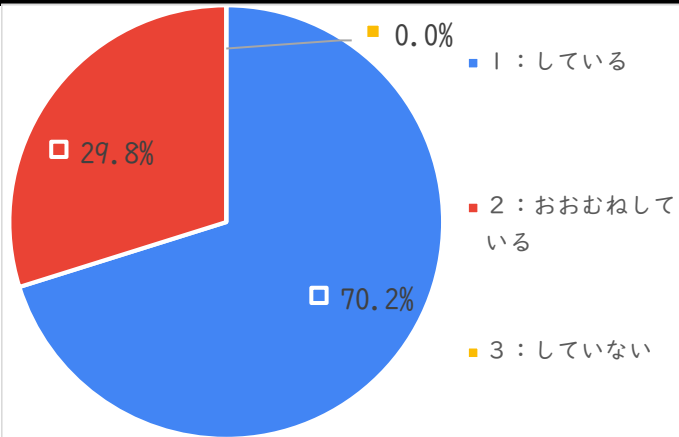
5. 登別小学校では、学校だよりや学年通信、ホームページ、YouTube、さくら連絡網によるメール配信などにより、情報をご家庭に伝えています。この取組について、どう思われますか。



6. お子さんは、学校生活を楽しく過ごしていると思いますか。



7. 担任は、必要に応じ、お子さんの話を聞いたり、相談にのったりしていますか。



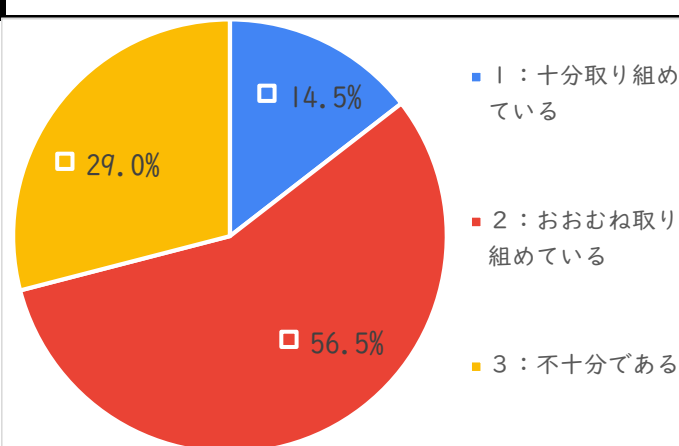
5. の学校からの情報発信については、「(おおむね)十分である」旨の回答を多くいただいております。今後とも、丁寧かつスピーディな情報発信・情報共有に努めてまいります。ご家庭でも、お子さまや学級についてご心配・気になることがございましたら、その都度、気兼ねなくご連絡ください。

6. の子どもたちの学校生活については、肯定的回答値の合計は、ほぼ前回と同様だったものの、「とても楽しく…」の割合が14%程度減少し、「おおむね…」の回答にスライドしている傾向が見られました。7. の質問では、各種教育相談の取組等に関して、すべての保護者様に肯定的に回答いただいております。お子さんが楽しく学校に通えることは、学習の理解や健やかな成長もさることながら、保護者様にとっての大切な願いの一つと存じます。今後も学校は、**お子さんごとの悩みに応じて、6月上旬、11月中旬の教育相談期間以外にも、いつでも個別に対応いたします。4.のいじめに関する対応も含め、今後も何かございましたら、お気軽に学校や担任までご相談ください。**

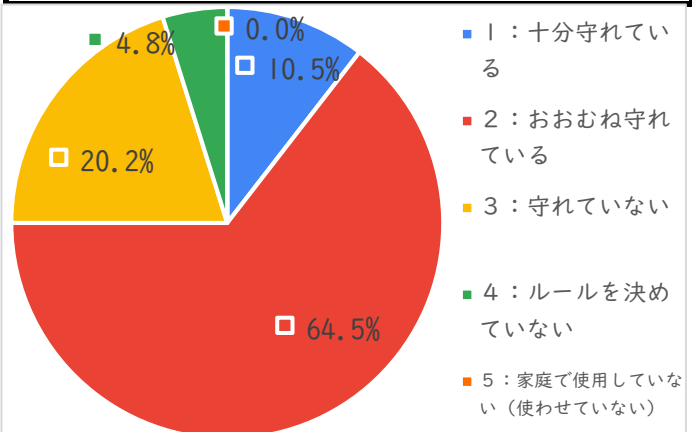
また、本校には、約2週間に1回の木曜日午前中、スクールカウンセラーが来校しますので、こちらのご活用や、定期的にさくら連絡網でお知らせしている各種相談窓口のご活用もご検討ください。

(2) 家庭での様子について

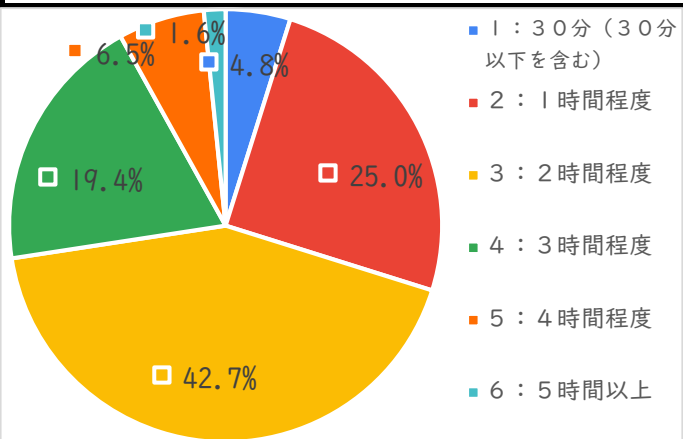
8. お子さんは、学年に応じた時間(学年×10分以上 ※4年生 4×10=40分以上)、家庭での学習に取り組んでいますか。



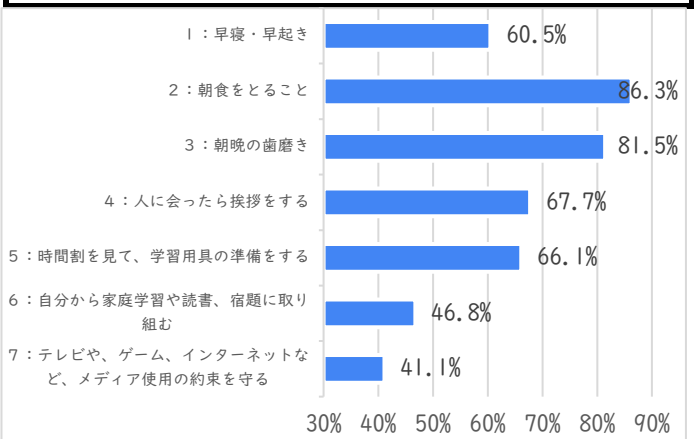
9. お子さんは、スマートフォンやタブレット機器、ゲームなど電子メディアの使用時間、SNSの使い方について、ご家庭での約束を守っていますか。



10. お子さんが家でゲームやスマートフォン(タブレット)、テレビ、インターネット、メール、SNSなど電子メディアに触れている時間はどれくらいですか。



12. 現在、お子さんに身に付いていると思う生活習慣はどれですか。あてはまるものを全て選んでください。



8. 家庭学習については、十分、またはおおむね取り組んでいると感じている保護者が、全体の約71%となりました。これは、前回のアンケートから約5%の減少です。「十分・・・」とする回答と、「概ね・・・」とする回答が、それぞれ5%ずつスライドした印象を受けます。9. 電子メディア使用の約束については、前回と概ね数値の変動はありませんでした。(ただし、これも、「十分」→「概ね」と約4%のスライドが認められました。)

児童アンケートと比較すると、電子メディア使用の約束については、約92.5%の児童が、「家での約束を守れている」と感じており、「約17.5%程度の意識の違い」が見て取れます。また、児童アンケートでの、家庭学習の時間に関する質問では、学年×10分以上学習していると回答した児童の割合は全体の「70.7%」、でこの回答値は、前期と比べ児童でも5.8%程度下回る結果となっており、不十分と感じている約29%の保護者の意識と、概ね合致しています。

今後も、家庭学習の「時間」と「内容」「取り組み方」については、中学校進学までに、お子さんの様子を十分に見取り、褒め・励まししながら、家庭学習習慣の定着を目指していくとよいでしょう。家庭学習チェックシート(タブレット端末)の確認や、週末に家庭で行う「めあて・振り返りの入力」については、保護者様もぜひ一緒にタブレットを確認してください。

10.のメディアに触れている時間については、学校で子どもたちに話している一日1時間以内となっているのは、約29.8%。2時間以内で約72.5%程度という回答でした。児童アンケートと比較すると、2時間以内であれば約74.4%で、ほぼ合致しているものの、1時間以内と感じている児童は約40.6%おりますので、こちらにも、約10%程度の意識の違いが確認できました。「気が付いたら、ゲームやスマホに触っている」「テレビを何となくつけっぱなし」「インターネットをとりあえず接続しっぱなし」「家庭学習はしているようだけど、「～しながら」の時間の方が長い」という状況は、各ご家庭にないでしょうか。改めて、ご家庭でも、勉強については「時間」「取り組み方」「内容」について、電子メディア接続については、「ルールを守っているか」「だらだらとつけっぱなし・ケジメがないということがないか」「危険なサイトについていないか」など、ご確認、ご指導いただければと思います。

最後に、子どもたちに身に付いていると感じる生活習慣については、「早寝・早起き」「朝食をとる」「朝晩の歯磨き」が微減、「挨拶」が微増、「学習用具の準備」が8%近い減少、「自分から家庭での学習・読書に取り組む」が12%の減少、「メディア使用の約束」については、ほぼ変化なし。という結果となりました。

宿題以外の学習、いわゆる「家庭学習」にどう取り組むか、何に取り組むかは、保護者様にとっても頭を悩ませる問題とは思いますが、「ノート」「ドリル」「読書(教科書や、自分の好きな物語など・・・)」「家事手伝い(家庭科)」「調べ学習(タブレットをつかって)」「予習」「復習(解き直し)」「リコーダーの練習」「テスト前勉強」などなど、やること、やれることはたくさんあります。都度お子さんと話し合いながら、励ましの声をかけていただければと思います。毎週の時間割の下段に、学年によってはおすすめの家庭学習を記載しておりますので、そちらもご参考にしてください。

(3) 自由記述欄から

※ 担任や児童の個人名、クラスが特定される文については、一部修正しておりますことをご了承ください。この場合、修正は最小限にとどめ、赤字にしております。
 なお、個別のご心配、お悩みについては、学校や担任から直接保護者様にご回答・ご連絡を差し上げるなど、ご対応させていただきます。何卒、ご理解賜りますよう、お願い申し上げます。

- ◆ 学校でポケット手の危険性を教えて欲しいです。
 → 貴重なご意見、誠にありがとうございます。ご指摘の通り、手をポケットに入れた状態での歩行は、万が一の転倒時、顔を手で保護できないなど、危険性が伴うものです。学校でも、継続して、子供たちに指導・注意喚起してまいります。
- ◆ 朝、玄関の解鍵をもう少し早くは出来ないのでしょうか？外に密集して並ぶ意味もよく分かりません。

→ 貴重なご意見、誠にありがとうございます。いただいたご意見につきましては、11月22日発行の学校だよりにて、校長よりQ&A形式で回答しておりますので、再掲させていただきますとともに、ご理解・ご協力賜りますよう、お願い申し上げます。

<以下11月学校だより再掲文>

Q:「学校の登校時刻をもっと早めてほしい。」

A: お気持ちはわかりますが、難しいです。現在、正面玄関の解錠は8時5分となっております。我々の勤務は8時～4時30分。では、最低でも8時から解錠ができるのではないかと考えられるかもしれませんが、この5分間は子供たちの受け入れ準備が主であることをご理解ください。ですから、ほとんどの教室に大人がいないという状況での解錠となり、生徒指導上のトラブルで、悲しい思いをすることにつながります。ましてや、勤務時間前の解錠となると、子供たちの安全面に関する組織的対応も難しくなります。理由は他にもあるのですが、主に以上2点から登校時刻を早めることはできないとご理解ください。ご家庭におかれましては、登校時刻を守っていただくことを、心よりお願い申し上げます。ただ、悪天候などの場合は、早めに解錠し玄関内で待たせる等の措置をとることも申し添えます。

◆ あいさつ運動のときに自分にだけ挨拶をしてくれない、または無視されたという話を子供たち数人から聞きました。子供の手本とならなくてはいけない大人が何をやっているのかなと思えました。好き嫌いで挨拶するしないを決めているのでしょうか。何のために役員をして、何のためにそこに立っているのか。子供たちへ恐怖心を与えるためでしょうか。怖くてそこを通りたくなかったと言っていた子もいました。大人として、人として最低なことですね。

運動会のとき毎年思うのですが、児童席の後ろに行かないように。子供たちに声をかけないように。と言われているにも関わらず、毎年のようにルールを守らず写真を撮ったりビデオを撮ったり、声をかけたりしている保護者がいます。近くで我が子を撮りたいのはみんな同じです。ちゃんとルールは守って欲しいです。

→ 貴重なご意見、誠にありがとうございます。以下2点ご回答申し上げます。

①いただいたご意見につきましては、PTA事務局を通じて、活動反省等にも生かしてまいります。引き続き、PTA活動にご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

②学校としても、保護者の皆様に対するお声かけがたりなかったと反省します。学校としましては、あくまでも運動会は教育活動の一環であること、校地が一般的に外部から容易に侵入しやすい作り(北海道の学校はおおむねそうなっています。)であり、こういった活動の際に、不審な人物と、保護者との分別・特定が困難であること、とはいえ、児童席に柵を作ることも極めて教育的ではないことから、特段の事情がない限りは児童席への接近や声掛けをご遠慮いただくよう、保護者の皆様にお願ひするかたちとして、例年このような形で実施しております(本部席を通じてのお声かけまでを妨げるものではありません)。次年度も、保護者の皆様におかれましては、上記の趣旨をご理解いただけますよう、ご案内の時期に合わせて、お知らせ・お願ひしてまいりたいと存じます。なお、ここ数年の保護者席のグラウンド状況の悪さ、児童数・世帯数の減少を鑑みまして、次年度以降は保護者席の在り方、写真撮影や自分のお子さんが出場しているときの、観覧場所等についても変更することで検討をしている最中であることを申し添えます。

◆ 新しい家庭学習の方法に変わってから、家庭学習を手抜きしているように見受けられる。特に毎日提出しなくて良くなったので簡単な取り組みで終わらせてしまうことが多くなった。私もチェックはしているのですが取り組み方が本当にこれで良いのか悩みます。

→ 貴重なご意見、誠にありがとうございます。基本的に、どの学年においても、宿題以外のいわゆる「家庭学習」は毎週1回の提出と、学級通信を通じてご連絡しているところでございますが、もちろん、毎日の提出を拒むものではございません。お子さんとお話合いの上、毎日担任に出すことを希望する場合は、各担任へご相談ください。(この場合、ハンコ程度の確認になりますことは、以前からの継続となりますことをご了承ください。)

家庭学習チェックシートの取組は、家庭での自分の学習を、「時間・量・内容」等の面から目当てを立て、また、振り返り、毎日記録(タブレット端末で)することで、『自ら学ぶ習慣・望ましい学習習慣』を形成することが狙いであり、このことは、家庭のご協力が必要不可欠です。毎日出さなくてはならないからやる。も学習の動機づけの一つにはなりますが、出さなくては出さないとやらざるを得ない。では、長い目で見たときに、自らの力にはなりません。学校では、引き続き、子供たちが自ら学びたいくなる授業改善やチェックシートの適切なフィードバックに努めてまいります。ご家庭でも、週末に、一緒にチェックシートを確認する、目当てや振り返りを一緒にやる、家庭学習の内容を、お子さんと一緒に考えるなど、励ましや助言をお子さんにかけていただければと存じます。(おすすめの家学習は、各学級の時間割下部に担任が記載していることが多いです。そちらも参考にしてください。)

◆ コロナ騒動がおわり、？とりあえずは今までと変わらない学校生活になり安心している。日本は特に、周りの人のことを考えすぎ、自分を押し殺すような教育になっているところは嫌だと思う。いいところもあるが、行きすぎて奴隷教育のようにも思える。

それがこのコロナ騒動で分かった。自分の意見より人に合わせる。ワクチン騒動でよくよく見えて来た。テレビではまだ頭の悪そうな医者がマスクマスクといっている。どれだけ煽って日本人の行動を狭めたいのかとおもう。マスクがどれだけ効果がなかったかこの2年間で分かったはずだが、テレビであのような人たちの話を聞くことと聞かないような気がして、言うことを聞いてしまう。それは学校教育の賜物だ。先生の言うことは絶対と教えられて生きてきた、ワクチンと言われたらワクチンを打つのも当たり前なのだ。その結果、この超過死亡だ。わかりやすいところで芸能人の死も異常に増えて来た。

思いやりの押し売りはもう勘弁してください。

子供達のため、が本当に子供達のためなのか。それにしっかりと気づいている先生方がいるのなら安心して任せたいと思う。今は少数派の意見をちゃんと聞こうという方向へ向かっている。とてもいいことだと思うが、やりすぎではないのか。たとえば、君、ちゃん呼びが、男女どうのこうのと言って、誰々さん呼びになったが、さん呼びが気持ち悪いと思う子供もいる。

結局どれに合わせても誰かが不自由なのだ。

それこそ、全員にあわせず自由でいいのではないのか。たしかに、自分は君呼びがいやだ。自分は○○ちゃんと呼んでほしいという子がいるのかもしれない。そこらへんのさじ加減は難しいところかもしれないが、子供たちはみな、さんが気持ち悪いといっていた。その子達の意見は無視していいのか。心は女だと言いながら女性を犯す者もいる。分かってもらえなくて本当に辛い思いをしている人もいるかもしれない。私たちが学ぶべきものは相手に合わせて同じようにすることではなくて、相手の気持ちを想像し、寄り添えるようになることではないかと思う。形だけ、わかっています、やっています。では何も変わらない。

周りに嫌なことを言ったり嫌な気持ちにさせている子がいる。自分はみんなにひどいことを平気で言うのに、自分が言われたら騒ぐ。

みんな我慢していても、その子が僕はいじめられている！といえればみんなが悪くなる。わたしから見ても子供達の話聞いても本当に子供たちが不憫だな、と思うが、俺は辛い！と声をあげたものが勝ち。というのも納得はしていない。だったらあなたたちも騒ぎなさい、と言うがみんな我慢する。先生がどのような目で見ていられるのかはわからないが、そう言う意見もある。騒いだもん勝ち、特に騒いだところほど親も面倒だったりする場合もある。先生たちも大変だと思うが、そこら辺の子供達のメンタルも心配しているところ。

→ 貴重なご意見、誠にありがとうございます。大きく3点、ご説明・ご回答申し上げます。
ご意見の主旨に沿っていない回答となっておりましたら、お詫び申し上げます。

①新型コロナウイルス感染症について

学校の新型コロナウイルス感染症対応につきましては、以前より学校からのお知らせや、本アンケート回答等でご説明申し上げますとおり、国の衛生管理マニュアルならびに、学校保健安全法、同法施行令、同法施行規則、国・道・市からの通知、指示に基づいて行っております。今現在は、コロナウイルスよりインフルエンザが流行している季節となっておりますが、これまでも、これからも、お子さんの健康が何より大切であることは、保護者様も、学校も、考えを別にするものではございません。引き続き、ご理解と、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

②敬称について

保護者様のお考え中にあります、「私たちが学ぶべきものは相手に合わせて同じようにすることではなくて、相手の気持ちを想像し、寄り添えるようになること」。おっしゃる通りでございます。

学校としては、教職員集団は基本的に、「くん、ちゃん」から、「さん」と、できるかぎり児童に対しても一般的敬称で呼ぶようにしているところでございます（もちろん、そうならない部分もあります）。これは、児童または保護者様に強制・強要しているものではございません。子供たちには、子供たちの育ってきた環境や、考え方、いわゆる独自の文化がございますことから、保護者様、または児童・お子様が、「さん」の敬称を気持ち悪い。と感じる気持ちも、一つの考え方でございますので、そちらも、一切否定するものではございませんことをご理解いただければ幸いに存じます。

学校としては、今まで児童に一般的に使用していた、いわゆる「くん」「ちゃん」呼びは、全国様々な学校で教職員から子供たちに対して『親しみと敬称の両方の側面』から使用している経緯があると存じてございますが、本校は『性や個の多様性』『ジェンダー』に配慮しながら、性別を特定せず、特定の性別に関する先入観や偏見を、できるだけ避けていこうという考えに基づき、すべての人に対して公平に用いることのできて、様々な社会的・文化的・職業的状況で用いることのできる「一般的敬称」である「さん」で呼ぶこととしております。

このことによって、簡単に学校が「相手の気持ちを想像し、ともに寄り添える場」となるか否かについては、あくまで本取組は、教職員の敬称の使い方に関することですので、決して簡単なものではございません。学校は、わが国も含め、現在世界的に推進の流れにございます、『だれもが平等に尊重される社会環境を促進していこう』という考えや方針に基づき、一人一人のお子様のこれからの未来や可能性、個の多様性を考えながら、日常的に教職員、保護者様、児童、また地域等が、お互いの立場や気持ちを尊重しながら、行動し続けることを大切にしたいと存じます。以上の主旨に、ご理解賜れば、幸いに存じます。

③いじめについて

担任等へのご心配、誠に恐縮でございます。いじめにつきましては、全国すべての学校が、文部科学省が提示する「いじめ」の定義に基づき、いじめを認知し、対応しているところでございます。『いじめ』とは昭和61年に文部科学省で当時、『自分より弱い者に対して一方的に、身体的・心理的な攻撃を継続的に加え、相手が深刻な苦痛を感じているもの』と定義したのを始まりとし、数回の変更を重ね、平成25年より現在は『児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校に在籍している等当該児童生徒と一定の人的関係のある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものも含む。）であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの。』と定義しております。ですので、平たく解釈しますと「自分が嫌な思いをしたら」基本的にはいじめ。と認知の幅が広がってことになります。このことについては、昨年度末、ならびに、本年度の学校説明会等において、学校長より保護者様に説明し、協力をお願いを申し上げた通りです。

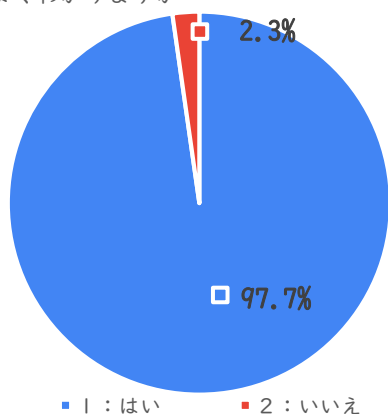
そこで、保護者様のおっしゃられている「周りに嫌なことを言ったり嫌な気持ちにさせている子がいて、自分はみんなにひどいことを平気で言うのに、自分が言われたら騒ぐ。」「みんな我慢していても、その子が僕はいじめられている！といえみんなが悪くなる。」というご意見につきましては、厳密に言えば、「そのことで、いやな思いをしている場合も、いじめとして認知する必要があります。」ということです。結果として、お子様が我慢をしたり、十分にメンタルに配慮しきれていないところがある部分につきましては、学校としましては、真摯に反省し、それらのお子さん、または、学級の子どもたち全体の心理的状況を引き続き十分注視・支援してまいります。

大切なのは、昔のように、「いじめ」=「いじめっ子」として、学校は考えているのではなく、当該行為を「いじめの行為」として認知し、加害・被害、または傍観者、観衆にかかわらず児童に適切に指導・説諭するとともに、どの子が感じている苦痛であっても、その声があれば、問題を解決する一歩としたい。ということであり、その声とはいわゆる『いじめ』に限るものではございません。

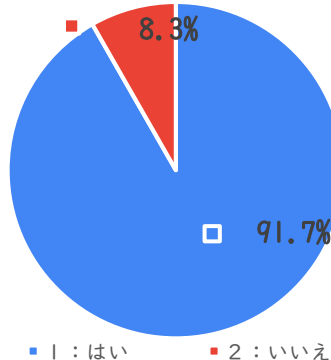
人が複数集まり、社会的環境を形成すれば、そこには必ず少なからず、トラブルや人間関係の軋轢が生まれます。これは、残念ながら大人社会も同様です。学校としましては、定義に基づいた行為をいわゆる「いじめに該当する行為」として認知しつつ、それを一つの足掛かりとしながら、どの子も、個人が受ける苦痛を、適切に表現・表明できること、また、時には適切に大人が間に入り、また時には子供たち同士で、互いに納得、理解・共感しながら解決を目指すよう、児童・学級への指導・支援を重ねるとともに、②でも記載いたしました保護者様のおっしゃられる「相手の気持ちを想像し、ともに寄り添える場」「だれもが平等に尊重される学校・教室環境」の形成を目指してまいります。なお、児童には、相談窓口の周知も含め、心と体の健康観察、オンライン教育相談窓口など、困ったときに、だれにでも相談できるよう、話をしております。引き続き、ご家庭の皆様がご感じになられるお子様の変化や困り感がございましたら、学校の方へ忌憚なくご連絡いただきますよう、お願い申し上げます。

児童アンケート

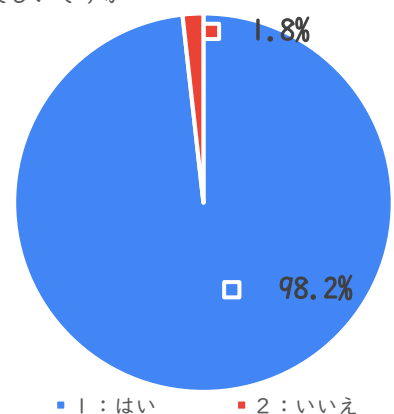
1. 先生の 勉強の 教え方はよくわかりますか



2. 授業中、自分の考えをもち、友達と話し合うことで、新しいことに気付いたり、発見したり、考えを広げたりすることができていますか。

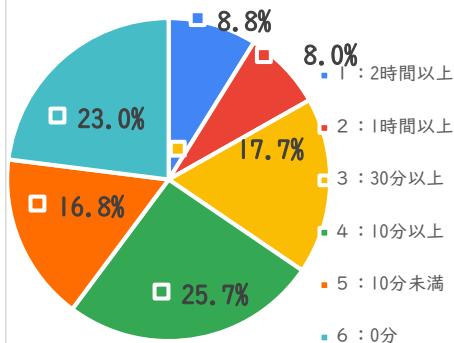


3. タブレットを使った勉強は楽しいですか

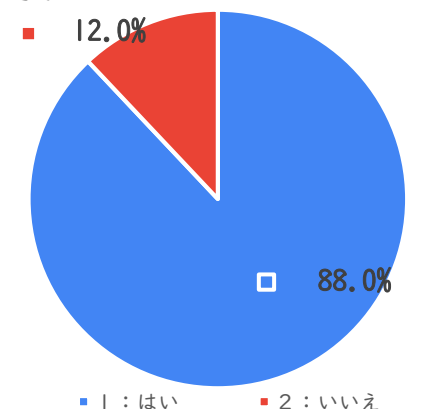


1. 勉強の教え方、2. 学習中の友達等との「対話（グループやペア学習など）」、3. タブレットを使用した勉強については、前回のアンケートと、大きな数値の変動はありませんでした。今後も、**教師自身の「教え方」の改善だけでなく、ときには子供たちどうしで、ときには自分で、など、様々な方法で、「よりよく学びを深められる」よう、授業改善を進めてまいります。**

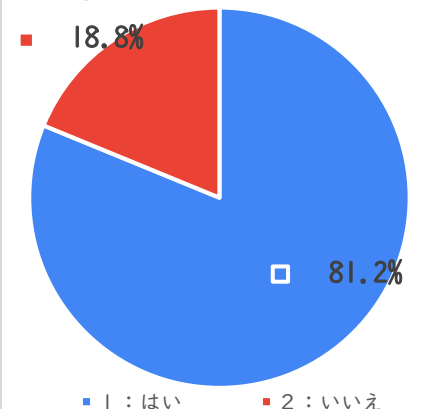
4. 学校の勉強時間以外に、普段（月から金）一日あたりどれくらいの時間読書をしますか



5. すすんで体を動かしたり運動したりしていますか

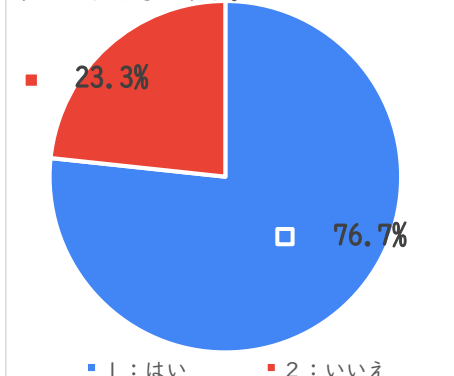


6. 自分にはよいところがあると思いますか

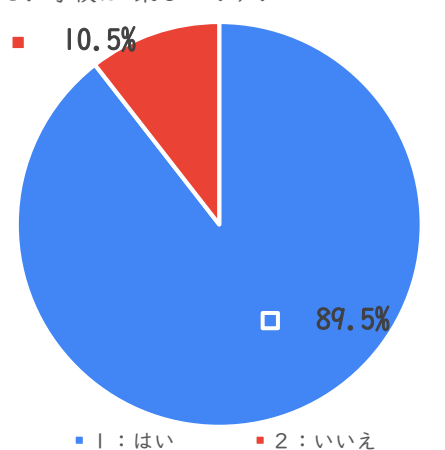


4. の読書時間については、0分の子が全体の約23%と、前回から、さらに2%増加しました。「平日、毎日」、長時間読書することはあまり現実的ではありませんが、**お子さんに学習や読書を勧める傍らで、「家族がタブレットやスマホをさわっていたり、テレビを見ている。」ということはないでしょうか。アウトメディア読書デーの取組（月2回第1・3水曜日）に合わせ、メディアに触れずに、親子で本に親しむ時間をとるのもいいですね。また、家庭学習でじっくり本を読む。というの、一つの方法でしょう。**5. の運動に関する質問については、前回と概ね変動なしでしたが、わずかずつですが右肩下がりで「いいえ」の回答が増えてきています。6. の自己肯定感に関する回答は19%近いお子さんが、自分にはよいところがあると、回答していないことが気になります。（前回より約10%増えました。）今後とも、ご家庭でもお子さんが、**『かけがえのない存在である』**ことを、折に触れて話題にしてください幸いです。

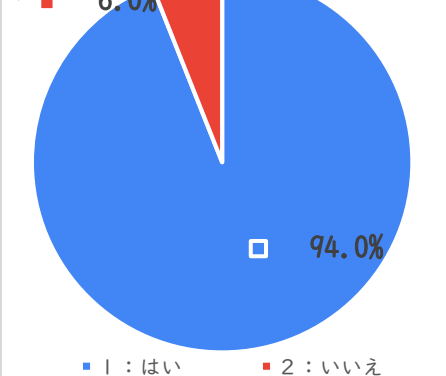
7. 自分の思っていることや感じていることを、言葉にして話すことができますか。



8. 学校は楽しいですか

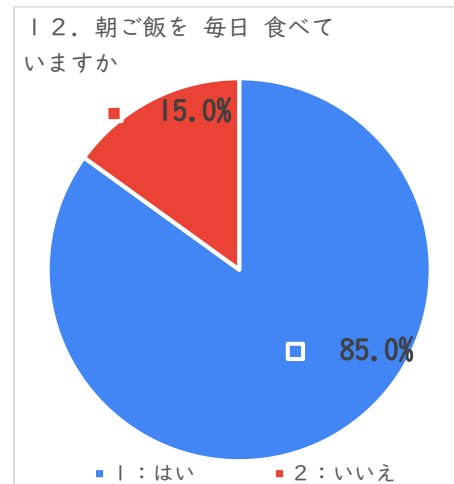
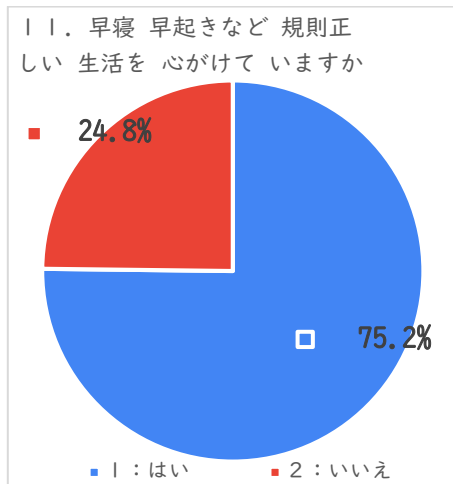
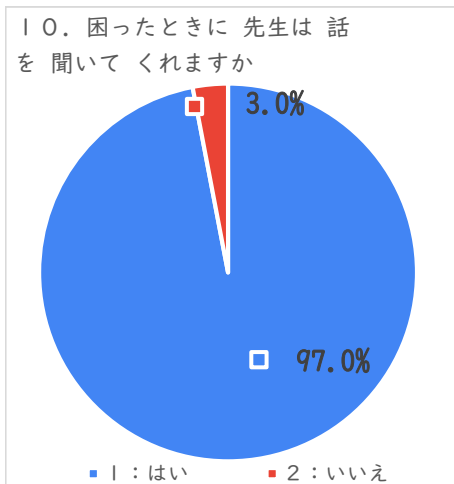


9. 思いやりや優しい気持ちで周りの人とすごしていますか



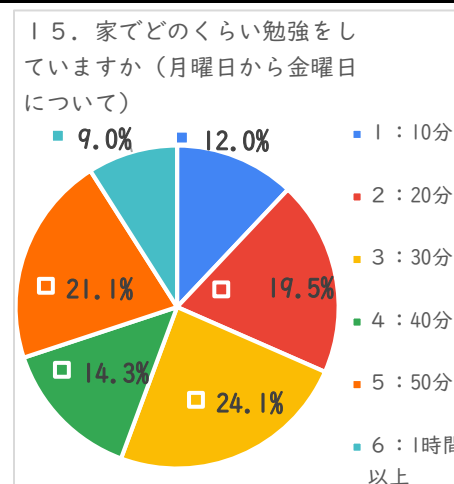
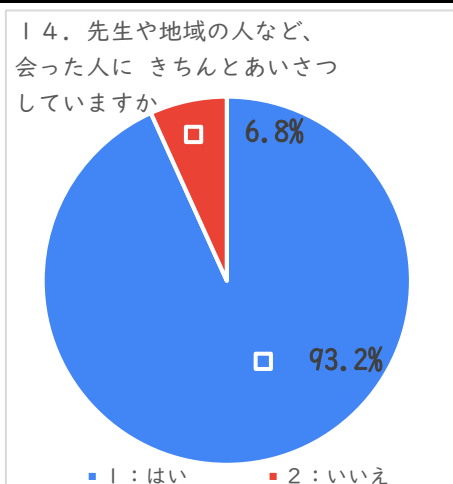
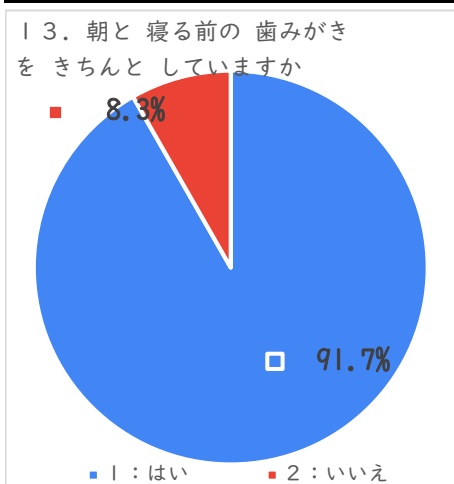
8. の質問では、学校が楽しいと思って登校しているお子さんが約7.5%程度減少しました（R4前後期とほぼ同程度）。子供たちが、学校を楽しんでいる要素は、学習（その日の教科の内容、理解度）、人間関係（大人・子供含めた）、生活リズム（十分な睡眠・食事）など、さまざまです。この辺りは、個々のお子さんの状況をつぶさにみながら、改善に努めてまいります。保護者様のご協力をお願い申し上げます。

9. の質問では、大きな数値の変動はありませんでしたが、7. の質問では、**約23%の子供たちが、自分の思いや考えを、言葉にして話すことを苦手に行っていることが分かります。先ほどの2. の質問とも関連しますが、『自分の考えを、きちんと伝える。』『相手に分かるように伝える』など「相手意識」をもって話したり書いたり、時には聞いたり、受け止めたりできる子どもたちを、ご家庭と協力して育てていきたいと思ひます。（この力は、SNSなどによって、直接的なコミュニケーションが減少してきている現代だからこそ、重要な力です。）**



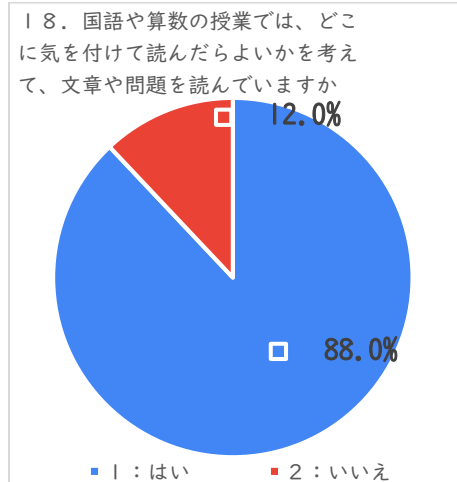
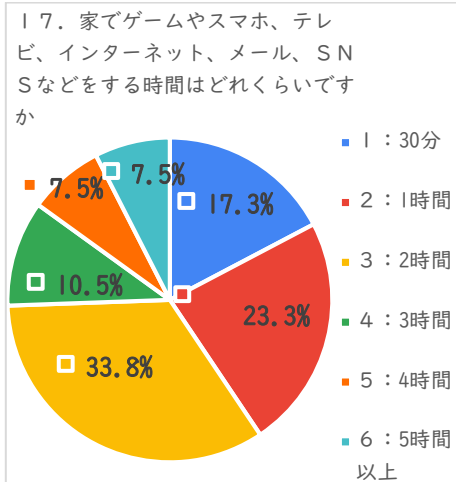
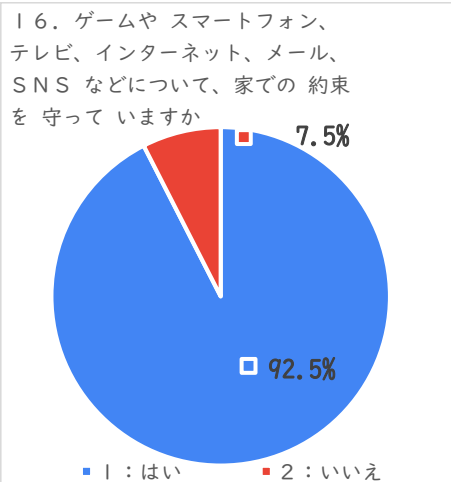
10.の質問では、大きな数値の変化はありませんでした。今後も子どもたちの困り感を、つぶさにキャッチできるよう、引き続き努めてまいります。

11.12.13.については、それぞれ、毎日の生活と、健康を支える大切な習慣です。11「早寝早起き」については約5%、12「朝ご飯の習慣」は約7.4%、13「歯磨きの習慣」が約2%、それぞれ減少しています。**早寝・早起き、朝食、歯磨きについては、引き続き、ご家庭のご協力をお願いいたします。**

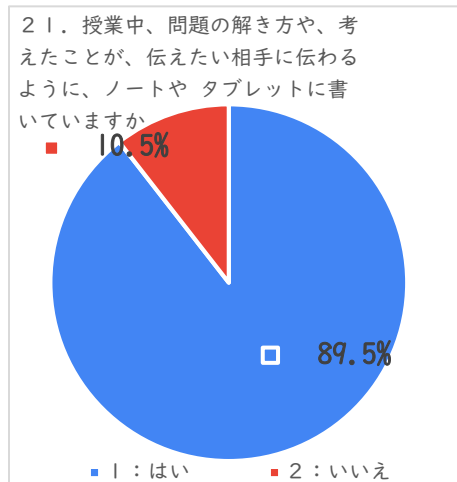
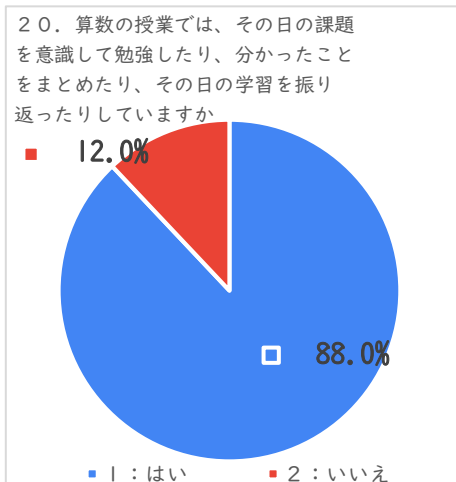
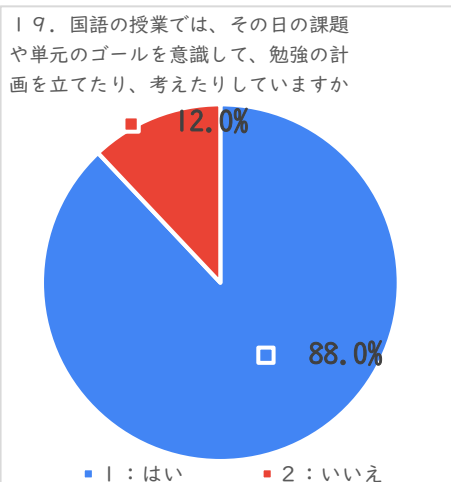


14.の挨拶に関する質問は、約3.8%の減少でした。保護者アンケートでは、身に付いていない、と感じる保護者様が約3割。挨拶されたら返すけど、自分からは・・・という感じなのかもしれません。**「子供が、『進んで』挨拶する。」という状況になるのは、日常的な習慣や、周りの環境によるところも大きいです。親御さんが、お子さんと一緒にお出かけしているときなど、まずは『大人が』進んで挨拶すること、その時に一緒に挨拶することで、お子さんにも、それが自然なものとして身についていく一面もあります。(これは、本当に小さいうちからとも言われています。)学校でも、まずは教師が率先して挨拶、を大切にしていきます。**

15.の学習時間については、保護者アンケート考察にも記載しましたとおり、家庭学習は、**時間と同様に、どんなことに取り組むか、どんな風に取り組むかが大事です。テレビに意識が傾いている、なんとなく座っているうちに時間はたった。ということのないよう、今後ともお声がけをお願いいたします。**お子さんの学習の望ましい習慣付けのために大切なのは『学校から「やりなさい」といわれている。からやる。』『出さないと先生から『叱られる・怒られる』からやる。』『休み時間をつぶして勉強しないといけなくなるからやる。』などのいわゆる『罰的感觉』から、「自分で必要だから、興味があるから、習慣だから」やる。に切り替わっていくことであり、そのためには、『ご家庭のお力』が必ず必要です(入学選抜試験等、目の前に超えるべきははっきりとした人生のハードルがない小学生は、なおさらです)。学校では、タブレット端末を活用した家庭学習チェックシート、週1回の家庭学習提出日の提出により、お子さんの頑張りを認め・励ます指導を継続してまいります。ご家庭では、週末のタブレットでの目当てや振り返りの記入、時間や内容の確認、なにより、毎日の励ましや、認め・ほめる言葉を忘れずに、お子さんの主体的な学びの力を育てていけるよう、共に手を取りあって頑張っていきましょう。



16. 電子メディアを使用する際に、家での約束を守っているかどうかの質問はほぼ変化がありませんでした。時間でみると、**1日1時間程度以内に収まっているのは、全体の40.6%で、昨年同期とほぼ同程度です(目標は1時間!)**。一方、**1日3時間以上メディアにふれている児童の割合は、2年前から26.1%→32.0%→30.1%→27.7%→27.7%→27.3%→25.5%**と、**やや改善の傾向で推移しております**。このあたりは、保護者アンケート回答とも、概ね合致していました。アウトメディア読書デーの取組は、学校での啓発・指導の意味で行っているものですが、「**その実践の場は家庭です。**」あらためてお子さんと「一日の使用時間の約束」「使い方の約束」を確認するとともに、特にスマホやSNS、インターネット接続の際は、トラブルに巻き込まれない・トラブルを生まないネットモラルやマナーについてもご指導をお願いいたします。



18から21までの質問は、学校の授業に関する質問ですので、18から21までの回答数値がよくないということは、「**学校が授業改善をより意識しなくてはいけない**」ということだと考えます。18の質問からは、約1割のお子さんが、教科書の文章や、問題文を読んだときに、気を付けるべきポイント(数字、中心となる言葉など)を意識していない、もしくは、理解していないことがわかります。子どもたちが、授業中に、課題意識・目的意識をしっかりとって主体的に取り組めるような工夫、また、その日、自分が何を身に付けて、何が課題だったのかを振り返る工夫、そして、相手意識をもって、ノートやタブレットを活用しながら他者と学び合える活動の工夫など、今後も授業改善を続けてまいります。

アンケートへのご協力、誠にありがとうございました。
引き続き、本校の教育活動に対し、ご理解・ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。